

使徒聖パウロテサロニケ人に贈りし前書簡

冒頭

第一章 パウロ、シルヴァノ及びチモテオ、神に在らず父及び主イエズス、キリストに在るテサロニケ人の教會に「書簡を贈る」。二願はくは恩寵と平安とを汝等に賜はらんことを。我等は常に汝等一同の為に神に感謝し奉り、祈禱の中に汝等を記念して、三絶間なく我父に在らず神の御前に於て、汝等の信仰の業と、愛の勞苦と、我主イエズス、キリストに於る希望の不退転なる事とを記憶す。四 神に愛せられ奉る兄弟等よ、我等は汝等が選まれし次第を知れり。五 即ち我等の福音は、汝等に於て唯言のみに止らず、能力及び聖靈によりて全き確信を獲たりき、我等が汝等の中に在りて、汝等の為に如何なる者なりしかは、汝等の知れる所の如し。六 汝等も亦大いなる患難に在りながら、聖靈の喜を以て言を受けて、我等と主とを學ぶ者と成り、七マケドニア「州」及びアカヤ「州」に於る一切の信者の模範たるに至れり。八 蓋主の御言は、汝等よりしてマケドニア及びアカヤに響きしのみならず、神に於る汝等の信仰「の風評」何處にも行渡りたれば、我等は何事をも言ふを要せず、九 即ち彼等自ら我々の事を語り、我等が汝等の中に入りし次第、又汝等が偶像を去りて神に歸依し、活き給へる眞の神に事へ奉り、一〇

死者の中より復活せしめ給ひし其御子、即ち來る怒より我等を救ひ給ひしイエズスの、天より降り給ふを待てる次第を吹聴するなり。

第一編 パウロがテサロニケ人の為に為しし事并に彼等の之に應ぜし次第

第一項 テサロニケに於るパウロの布教

第二章 兄弟等よ、我が汝等の中に入りし事の空しからざりしは、汝等自ら之を知れり。二 即ち汝等の知れる如く、我等は曾てフィリッピに於て苦められ、辱を受けたりしも、我神に信頼し奉りて、種々の争の中に、敢て神の福音を汝等に宣べたるなり。三 蓋我等の勸は迷にも穢にも欺にもよる事なく、四人の心を迎へんとするが如くにせず、我等の心を認め給ふ神の御旨に適はんとて、神より認められて福音を托せられ奉りし儘に語る。五 又我等が諂諛の言を曾て用いし事なきは汝等の知れる所に於て、之を口實として貪りし事なきは神の證し給ふ所なり。六 又我等は人に、即ち汝等にも他人にも、名譽を求めず、セキリストの使徒として汝等に重んぜらるを得たれども、汝等の中に於ては子兒の如くに成りて、恰も、乳母が其子兒を愛育する如くなりき。八 斯く汝等を戀慕ひて汝等是我至愛の者と成りたれば、我等は神の福音のみならず、生命をも汝等に與へんことを切に

望み居れり。九 蓋兄弟等よ、汝等は我等の勞苦を記憶せり、汝等の一人をも煩はざらん爲に、我等は晝夜勞働して、汝等の中に神の福音を宣傳へたり。一〇 我等が如何に聖にして且正しく且咎なく、信じたる汝等に對したるかは、汝等も之を證し、神も亦之を證し給ふ所、一 又我が如何に父の子等に於る如く、汝等の各に對ひて、二 其御國と光榮とに汝等を召し給へる神に相應しく歩まんことを勧め、且奨励し、且希ひしかは、汝等の知る所なり。三 故に又汝等が、神の御言を我等に聞きし時、之を以て人の言と爲す、事實然あるが如く、信じたる汝等の中に働き給ふ神の御言として受けし事を、絶えず神に感謝し奉るなり。四 蓋兄弟等よ、汝等はユデアに於てキリスト、イエスに在る神の諸教會の例に従へる者と成れり、其は彼等がユデア人より受けし如き苦を、汝等も同邦人より受けたればなり。五 ユデア人は主イエスをも預言者等をも殺し、又我等を迫害したるに、尚神の御意に適はず、衆人に敵對し、一六 我等が異邦人に救を得させんとて語る事を拒み、斯の如くにして常に己が罪を満たす、然れど神の御怒は彼等の上に及びて其極に至れり。

第二項 パウロがテサロニケを離れし以後の事實

一七 兄弟等よ、我等は外見上暫時汝等を離れしも、心は離れず、一層早く汝等の顔を見ん事を切望せり。一八 即ち我等は汝

等に至らんとし、特に我パウロは一度も二度も然したれど、サタンは我等を妨げたり。一九 蓋我等の希望、或は喜、或は誇るべき冠は何ぞ、我主イエス、キリストの降臨の時、御前に於て汝等も其なるに非ずや、二〇 其は汝等は實に我等の光榮にして且喜なればなり。

第三章 是故に最早堪得ずして、我等のみアデンスに留るを宜しとし、二 我等の兄弟にしてキリストの福音に於る神の役者たるチモテオを汝等に遣はせり。是信仰に就きて汝等を堅固ならしめ且奨励し、三 斯る患難の中に在りて一人だも動かされざらしめん爲なり、其は我等が患難に定められたる事は、汝等の自ら知る所、四 蓋汝等の中に在りし時も、我等が必ず患難に遇ふべきを豫め汝等に告げ居たりしが、果して斯く成來れるは汝等の知る所なり。五 此故に我は最早堪得ずして、汝等の信仰の如何を知らん爲に人を遣はせり、其は或は誘ふ者の汝等を誘ひて、我等が働の空しくならん事を恐れたればなり。六 然るにチモテオ汝等の許より我等が許に來りて、汝等の信仰と愛との喜ばしき音信を傳へ、又汝等が常に我等に就きて善き記憶を有ち、我等を見ん事を望めるは、恰も我等が汝等を見ん事を望めるに等しとの福音を告げたれば、七 是によりて兄弟等よ、我等は諸の憂苦と困難との中に在りながら、汝等に就きて、汝等の信仰を以て慰を得たり。八 即ち汝等だに主に於て立たば、我等は今生回るなり。九 蓋我神の御前に於て、汝等に就きて我等の

喜べる一切の喜は、如何なる感謝を以てか汝等の為に神に報い奉るを得べき。一我等は汝等の顔を見ん事と、汝等の信仰の缺けたる所を補はん事とを、晝夜切に祈り居るなり。二願はくは我父にて在す神御自ら、又我主イエズス、キリスト、我等を導きて汝等に至らしめ給はんことを。三願はくは相互の間に於ても、又衆人に對しても、汝等の愛を増し且豊ならしめ給はん事を。我等が汝等に對するも亦斯の如し。三是汝等の心を聖徳に固め、我主イエズス、キリスト其諸聖人と共に來り給はん時、我父にて在す神の御前に咎むべき所ならしめん為なり、アメン。

第二編 定理的教訓、并に倫理上の教訓

第二項 道德に関する勸告

第四章 然て兄弟等よ、我等は主イエズスに由りて汝等に求め且希ふ、如何に歩まば神の御意に適ふべきかは、汝等が曾て我等より聞きたる所なれば、其如くに歩みて益進まん事を。二其は主イエズスを以て、如何なる教訓を我が汝等に與へしかば、汝等之を知ればなり。三蓋神の御言は汝等の聖たらん事に在り、即ち汝等自ら私通を禁じ、四各神を知らざる異邦人の如く情慾の望に任せずして、五其器を神聖に且尊く有つ事を知り、六又誰も此事に就きて兄弟を欺かず且害せざるに在り、主は

是等一切の事に報い給へばなり、我等が既に豫め汝等に語り且證したるが如し。七蓋神が我等を召し給ひしは、不潔の為に非ずして、聖たらしめん為なり。八故に是等の事を輕んずる人は、人を輕んずるに非ず、我等の身に其聖靈をも賜ひたる神を輕んじ奉るなり。九兄弟的愛に就きては、我等が汝等に書遣るを要せず、其は汝等自ら曾て相愛する事を神より學びたればなり。一〇蓋マケドニア一般に凡ての兄弟に對して、汝等既に之を為せり。然れど兄弟等よ、我等は汝等が益豊にして、二汝等に命ぜし如く、努めて、沈着きて己が業を営み、手業を為し、又外の人々に對して正しく歩み、人の何物をも望まざらん事を願ふなり。

第二項 キリスト再臨に関する教訓

二兄弟等よ、永眠せる人々に就きては、汝等が希望なき他の人々の如く歎かざらん為に、汝等の知らざるを好まず、三蓋我等若イエズスの死し給ひ且復活し給ひしことを信せば、又神が永眠せし人々をイエズスに於て之と共に携へ給はんことを信すべきなり。一四即ち我等、主の御言に由りて汝等に告ぐ、主の再臨の時に生殘る我等は、永眠せし人々に先つ事なかるべし。一五蓋号令、大天使の聲、神の喇叭を合圖に、主自ら天より降り給ひ、キリストに在る死者先復活すべし、一六次に生殘る我等は、彼等と共に雲に取擧げられて空中にキリストを迎へ、斯

て何時も主と共に在るべし。一七 然れば汝等は等の言を以て相慰めよ。

第五章 兄弟等よ、時代と時刻とに就きては、汝等書遣らるるを要せず、二 其は主の日が夜中の盗人の如くに来るべきことを、自ら確に知ればなり。三 人々が安心安全を口にせん時、亡は妊婦に於陣痛の如く俄に來りて、彼等は逃れざるべし。四 兄弟等よ、汝等は暗黒に非ざれば、彼日は盗人の如く汝等を襲ふまじ、五 其は汝等は皆光の子畫の子にして、我等は夜の暗黒のものに非ざればなり。六 然れば我等は他の人々の如く眠るべからず、而も目醒めて節制すべし。七 蓋眠る人は夜中に酔ふ、酔ふ人は夜中に酔ふ、八 然れど畫のものたる我等は節制して、信仰と愛との甲を着け、救霊の希望を胃と為すべし。九 其は神の我等を置き給ひしは、怒に遇はしめん為に非ず、我主イエズス、キリストに由りて救霊を得させん為なればなり。一〇 然てイエズス、キリストの我等の為に死し給ひしは、我等をして覺るも眠るも彼と共に生活せしめん為なり。一一 故に汝等既に為せるが如く、互に慰めて互に徳を立てしめよ。

第三項 倫理上の種々の勧告

二 兄弟等よ、願はくは汝等の中に働き、汝等を主に於て司り、且忠告する人々を識り、三 其業によりて最も厚く之を愛せよ、相互に和合せよ。一四 兄弟等よ、希はくは沈着かざる人々を誠

め、落胆せる者を慰め、弱き者を扶け、凡ての人に堪忍せよ。一五 誰も人に對して惡を以て惡に報いざる事を心懸け、相互に又凡ての人に對して、何時も善きことを追求せよ。一六 常に喜べ、一七 絶えず祈れ、一八 何事に於ても感謝し奉れ。是汝等一同に於てキリスト、イエズスに由れる神の御旨なればなり。一九 靈を消すこと勿れ、二〇 預言を輕んずること勿れ、二一 何事もも試して善きものを守れ。三 一切の惡の類より遠ざかれ。

末文

一三 願はくは平安の神御自ら、汝等を全く聖ならしめ給ひて、悉く汝等の精神、靈魂、身體を守り、我主イエズス、キリストの再臨の時、咎むべき所なからしめ給はん事を。二四 汝等を召し給ひしものは眞實にて在せば、此事をも為し給ふべし。二五 兄弟等よ、我等の為に祈れ。二六 聖なる接吻を以て凡ての兄弟に宜しく傳へよ。二七 聖なる凡ての兄弟に此畫簡を讀聞かせん事を、我は主によりて汝等に希ふ。二八 願はくは我主イエズス、キリストの恩寵、汝等と共に在らん事を、アメン。